



健康一口メモ

仙台市医師会
広報委員
松森 保彦

頭痛は、その多くは、検査をしても異常が見つからない片頭痛などの二次性頭痛ですが、くも膜下出血や脳腫瘍など、命に関わる病気が原因となることもあります。このような怖い病気による頭痛は、まれに軽い症状で発症する場合もあるため厄介ですが、危ない頭痛を見分ける特徴はあるのでしょうか。

そこで今回は、「危険な頭痛を疑う特徴」を2回に分けて解説することで、頭痛の危険信号について考えてみたいと思います。今月号では、前編として五つの症状をご紹介します。

①発熱を含む全身症状

かぜをひいても発熱しますが、それに首が硬くなる項部硬直や意識がぼんやりするなどの症状が現れた場合には注意が必要です。髄膜炎や脳炎を疑って早期に検査を行う必要があります。

②がんの既往

がん(悪性腫瘍)の既往がある方の場合、脳転移を考えておく必要があります。特に嘔吐やめまい、ふらつきなども伴う場合には、MRIなどの検査を行います。

危険な頭痛の特徴(前編)

③神経脱落症状または機能不全(意識レベルの低下を含む)

脳や神経の損傷によって発生する症状、例えば、手足のまひやしびれ、意識がぼんやりするなどの神経脱落症状がある場合、脳卒中などと脳の病気による頭痛も考える必要があります。軽い頭痛でも、特に半身の脱力やしびれがある場合には、注意が必要です。

④急または突然発症する頭痛

突然発症する頭痛、特に一分以内の痛みの強さがピークに達する頭痛を雷鳴頭痛と言いますが、これはくも膜下出血をはじめとする脳血管の病気によって発症することがあります。この場合、脳の血管も含めて検査を行います。

⑤50歳以降で初発の頭痛

50歳以降で、特に高血圧や糖尿病などの基礎疾患がある場合には、二次性頭痛を発症しやすい傾向にあります。

以上、危険な頭痛を疑う特徴として五つご紹介しました。3月号では、八つの特徴をご紹介します。

〔仙台頭痛脳神経クリニック〕

／太田区大野田



マンション管理は、 日本ハウズイング

快適な住空間をあなたに!

管理組合運営でのお困りごとや、
ささいな疑問、何でもご相談ください。



日本ハウズイング株式会社 東北事業部

〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺 1-4-5 仙台ノースピアビル 4階

マンション管理でお困りでしたら

TEL.022-792-9596